

第114回
日本病理学会総会

松本記念財団講演レポート

2025年4月17日(木) 14:20 - 15:10

仙台国際センター



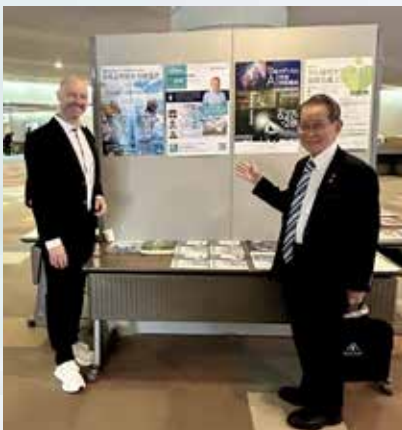
2025年4月17日から19日まで、第114回日本病理学会総会が仙台国際センターにて開催され、参加登録者数は3,337名、現地参加者は2,158名に上った。

4月17日、Günter Klöppel氏(ドイツ)は「脾腫瘍のうち、神経内分泌分化を主体とする腫瘍のサブタイプを分類して、その多様性を明らかにすること」をテーマに講演を行った。講演は長村村義之氏(日本鋼管病院 病理診断科部長)の推薦を受け実現した。

会場となった大会議室「荻」には、英語セッションにもかかわらず、多数の海外参加者や国内外の関係者が集まった。講演後、Klöppel氏に対し、主催者の古川徹大会長(東北大学)、松本記念財団理事長の松本氏からそれぞれ感謝の意が表明された。

講演終了後、Klöppel氏を中心に、同氏に師事したドイツの病理医、座長、長村氏および松本記念財団関係者を交えた懇談会が行われた。財団からは記念バッジと贈呈品が手渡された。また、講演実施の協力に対し、古川大会長から財団宛に謝意が示された。

今回の招聘事業は、松本記念財団として久々の国際交流の取り組みであり、学会への貢献を通じて今後の活動に資する知見が得られたことは次ページの通りです。



Günter Klöppel

The subtyping of neuroendocrine pancreatic tumors to reveal their heterogeneity - my never-ending passion as a pathologist.

膵腫瘍のうち、神経内分泌分化を主体とする腫瘍のサブタイプを分類して、その多様性を明らかにすること



Department of Pathology,
Consultation Center for
Pancreatic and Endocrine
Tumors, Technical
University Munich,
Germany



abstract / 抄録

Pancreatic neuroendocrine tumors (PanNETs) are probably the most variable and complex of the gastroenteropancreatic neuroendocrine neoplasms. In this talk I will subtype PanNETs by functionality, histology, hormones, and transcription factor expression as well as molecular profile and show how subtyping may help to establish cell lineage and diagnosis, predict the outcome, and guide the treatment

膵臓の神経内分泌腫瘍は膵消化管神経内分泌腫瘍の中で、最も複雑な腫瘍と考えられています。私の講演では、腫瘍細胞の機能、組織型、産生するホルモン、転写因子そして遺伝子発現により膵神経内分泌腫瘍 PanNET を亜分類し、この亜分類が細胞系列および診断を明確化し腫瘍の予後を予測し、そして治療法の選択に繋がることをお示ししたいと思えます。

Günter Klöppel 氏について

Günter Klöppel 氏は、膵神経内分泌腫瘍 (PanNETs) 研究の世界的第一人者であり、病理診断の国際的基準策定にも深く関与してきた人物です。今回の講演で取り上げられた PanNETs のサブタイプ分類は、近年の分子病理学的手法の進展とともに、腫瘍の予後予測や個別化治療の指針として、ますます重要性を増しています。

長村義之氏の特別発言



この度の招聘講演は、Klöppel 博士が“病理医として終わりのない情熱をささげているテーマ”である膵臓の神経内分泌腫瘍について、新しい病理学的アプローチを用いて新たに提唱されている亜型分類について分かりやすく解説された。診断治療の上でも大切な内容であり、Klöppel 博士の熱のこもった情熱が会場の聴衆にも充分伝わったものと思われる。

私は、特別発言の機会をいただき、講演の素晴らしさに賛辞を贈ると同時に、博士とのこれまでの共同研究および言葉では言い表せないほどの友情に謝辞を述べた。最後に、数年後に再び日本を訪れ病理学の進歩と変わらぬ情熱を見せていただくようお願いした。

松本記念財団との関連性



(一財) 松本記念財団は、「グローバルなヘルスケア人材の育成」をミッションとして掲げており、国際的に活躍する研究者を招聘することで、日本の医療・研究レベルの向上を目指しています。今回の Klöppel 氏の講演は、国際的視野を持つ病理医の育成に資する機会の提供となり、次世代の医療人材の育成という観点からもまさにそのミッションの体現といえます。